

らじみさらダボール子育て情報



「発達と技能」
令和2年11月4日号
板橋富士見幼稚園



昨日できなかったことが今日できる

1歳から3歳までは、毎日が新しい挑戦です。昨日は掴めなかったものが、今日は掴める。昨日まで殴り描きしていた絵を、今日には丸が描けるようになった。昨日まで階段を一段ずつ下りていた子が、今日は一歩ずつ交互に下りられるようになった…など、身近な行動が日に日に上達していく姿に、親は成長の喜びを実感していらっしやることと思います。

子どもの発達には、身体的発達と知的発達の両面があり、それぞれが統合できずに発達していき、徐々に知と身体が関係を強く結び合い、最終的には知の指示により身体を動かしていきます。その際、知の中の感情が司令塔となるわけです。そのため、感情が豊かになればなるほど、身体的動きも活発になります。



知「感情」と動作をつなぐのが、神経や筋肉です。体験や経験から得る知「感情」は、言葉を作り出し、はじめは自分の思いを体を通して相手に伝えようと、泣いたり、笑ったり、足をバタバタしたりし、だんだんと二語文・三語文と言葉をつないでいき、人と語り合う喜び感じながら成長していきます。今日は、子どもの発達過程を知っていただき、親はどんなときに、何をすればいいのかを考えてみましょう。

皆さんが、乗られている電動自転車は、坂道になると自分の足に力が加わり、後押ししてくれます。つまり、アシスト（支援）してくれるのです。ところが、自分の力で十分にこげる時は、電動自転車のアシストつまり支援は必要感を感じません。それに対して援助とは、助ける、つまりサポートすることを意味します。何度もやってもできない時に、できるようにしていくことをサポートといいます。例えば、その子がしたいと思う気持ちを先読みして、できるだけ自己実現できるよう環境を整え物を置いてあげたりなど、容易くできるよう援助（サポート）してあげてあげてあげます。サポート（援助）・アシスト（支援）は、異なる意味を持ちますが、どちらもその子にとっては、大切な温かい心の糸であることには変わりありません。

じっと見ていて、どうしてもできなさそうなときに、そっと後押しする「アシスト」と、その子が一所懸命何度もチャレンジしている時に、容易く自己実現できるよう、道を提示してあげたり、ヒントを出してあげたりする「サポート」を大切に、これからの毎日の遊びに手を差し伸べてあげてほしいと思います。